

台湾ネジ産業の持続的発展

——雁行形態化を免れた基盤技術産業への考察

近藤 淳 (アジアプランニング株式会社/京都大学経済学研究科研究員)

Kondo Atsushi (Asia planning Co., Ltd.)

1. 本報告の課題

ネジによる締結は、土木・建築・各種組立工程に広く用いられている。ネジ産業は、多くの産業に連関し、最終製品の安全性や精密性を支える重要な基盤技術産業の一つと言えるだろう。

本研究は、東アジアにおける、基盤技術産業の競争と発展を論ずる為の一環で有る。本報告の課題は、台湾のネジ産業の特徴を明らかにすることである。特に台湾のネジ産業が、中国を筆頭とするキャッチアップ国を前に雁行化することなく、発展持続している状況について着目する。

2. 東アジアのネジ産業

世界的に見て、東アジアはネジの主要な製造拠点である。日本・台湾・中国がネジ生産の中心であり、この三地域で生産されるネジ類の総和は、重量ベースで捉えた場合は世界生産の約 5 割を占めると言われている。生産技術の伝播や移転もこの三地域の中で行われている。明治時期以降、日本は西欧諸国からネジ製品、製造機械、製造技術を導入し第 2 次大戦前に輸入代替を終え、戦後の一時期には、日本はネジ類の最大輸出国であった。戦後日本のネジ製造技術は台湾に伝播し、汎用ネジについては、台湾にキャッチアップされて行くのである。また台湾のネジ製造技術も 90 年代以降は、台湾企業の直接投資を中心に、急速に中国や東南アジアに伝播して行ったのである。

3. 台湾ネジ産業の特徴

台湾のネジ産業の特徴を一言で表すならば、汎用品の大量生産である。台湾ネジ産業は、台湾域内にネジの需要産業を持たず、産業の成立時からほぼ一貫して、域外の需要家に対する供給で成長を続けている。ネジ産業の構成者として、ネジ製造機械会社 ネジ輸出業者の存在は大きいと言える。1990 年代を境として、台湾のネジ業者は域内の地代や人件費の高騰を前に中国・東南アジアへの直接投資と言う形で生産を海外に移して行く、しかしそこでも顧客は進出地だけでなく、世界各地の幅広い需要家であったことは、日本のネジ産業が成長の方向を、日系自動車産業向けに特化した事例に比して、台湾ネジ産業の特徴と言える。

4. まとめ

台湾のネジ産業が衰退したとは言えない。台湾域内のネジ産業は、大量生産方式での生産工場が有り、かつ実験工場でもある。国別統計でなく台湾系メーカーとして統計を取った場合、台湾系ネジメーカーが世界各地で生産するネジ類は台湾島内生産を大きく上回ると推定している。

(先行研究、出所、データ等は報告時に配布資料の中で示す)